

健康のひろば

—26—

地元の医師がアドバイス

—皮膚にある「ほくろ」には、友人から「悪性のメラノーマがあり、放っておくといけないのでは」と注意されました。私の場合、足底のあたりにいびつな形、色にややムラがるような気がします。心配です。

①形：左右非対称で形がいびつ。
②境界：辺縁がはつきりせず、周囲に染み出しているような感じ。
③色：色調が均一でなく、濃いところ、薄いところと色ムラがある。

（下川・主婦・四十五歳）
—☆—

悪性黒色腫（メラノーマ）は皮膚癌の一つで悪性度の高い癌です。日本人では足の裏に好発し、注

意が必要です。一方足の裏には「いわゆるホクロ」である良性の色素性母斑（別名：母斑細胞母斑など）も認めます。日本人の約7%は、足の裏の色素性母斑があるという報告もあり、足の裏のホクロはありふれたものといえます。

それでは、足の裏の悪性黒色腫と良性の色素性母斑とはどのように見分けるのでしょうか。我々皮膚科医は、大きく三段階で行います。

第一段階は、肉眼による診察で、悪性腫の可能性が高いといえます。

源付きの虫メガネのようなものでみる方法です。

典型例は、以上から、容易に悪性黒色腫と診断できますが、はつきりしない場合は、顕微鏡で悪性の細胞がないか検査するため、第三段階の切除が必要となります。

悪性黒色腫を疑った場合、可能ならある程度の周囲の皮膚を含め、十分な皮下脂肪の深さまで一塊とした切除が推奨されます。小さな欠損は単純に縫い合わせますが、欠損が大きく、縫い合わせ

られない場合は、植皮などの追加手術が必要となることもあります。切除には、入院が必要となることもあり、しばらくは足がつけなくなることもあります。また、術後、当然、患部に傷あとが残り、痛み、ビリビリ感といった神経症状も少なからず残ります。

しかし、悪性黒色腫は悪性度の高い癌です。そのため、正確な診断と、その後の対応が重要であり、遅良ぐ、違った場合は、悪性黒色腫でなくて良かったと考えていたたくべきものかもしれ

肉眼、ダーモスコピーで判断が難しい場合は、第三段階の切除の前にセカンドオピニオンとして、旭川医大などの皮膚悪性腫瘍の専門医を紹介させていただくことも可能です。

名寄市立総合病院の皮膚科は、非常に多くの患者さんが受診され、長時間お待たせすることになるかもしれませんが、まずは、皮膚科を受診してみてください。

（名寄市立総合病院 皮膚科・橋本任拜）

ほくろにも悪性腫が?!